

琵琶湖環境研究推進機構の設置

巻頭特集

琵琶湖環境研究推進機構の設置

複雑化・多様化する環境問題に対処するため、本県が持つ試験研究機関と管轄する部局が一堂に会して、課題の把握から、調査研究の実施、研究成果を踏まえた対策の立案に至る琵琶湖と環境の保全の仕組みとして、「琵琶湖環境研究推進機構」を設置しました。

まずは、琵琶湖における喫緊の課題である「在来魚介類のにぎわい復活」に向けた研究に取り組めます。

琵琶湖環境研究推進機構 （環境政策課）

琵琶湖では、長年の対策によりリンなどによる富栄養化に改善傾向が見られるようになりました。一方で、琵琶湖の漁獲高は減少を続け、新たに水草の過剰繁茂やプランクトンの種組成が変化するなどの生態系の課題が顕在化するなど、課題が複雑化・多様化しています。

このため、琵琶湖の課題に対して、個別の課題に対する対症療法的な対策だけでなく、環境や水産など関係する分野横断による総合的な解決を図るため、平成26年（2014年）4月25日に本県の4つの行政部局と8つの試験研究機関で構成する琵琶湖環境研究推進機構を設置しました。

この推進機構では、①連携による研究方策の策定、②現状分析と課題の整理、③研究の調整と進行管理、④研究成果の政策反映を行うこととしています。

● 推進機構で取り組む最初のテーマ

この推進機構で取り組む最初のテーマには、琵琶湖における喫緊の課題である「在来魚介類のにぎわい復活」に向けた研究に取り組むこととしています。この研究では、「水系のつながり」の視点で、森・川・里・湖における変化とその影響を調査し、在来魚介類の生息環境の再生を図るための研究を進めるとともに、「生物のつながり」の視点でリンなどの水質と、植物プランクトン、動物プランクトン、魚介類の相互関係を調査し、餌環境の再生を図るための研究を進めます。これらの研究によって在来魚介類の減少要因を解明し、にぎわい復活に向けた政策提案を目指しています。

